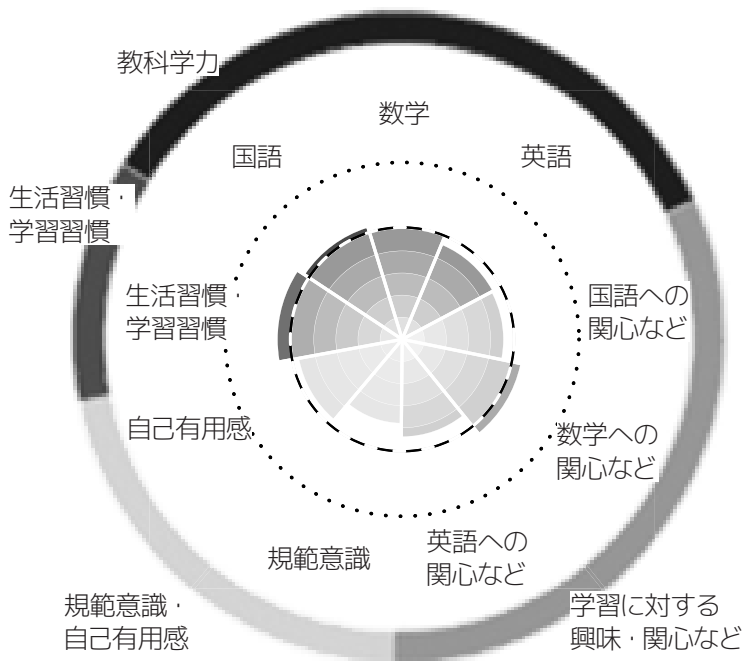


調査結果チャート (日野町中学校)

<児童生徒>生徒質問紙 (全国基準)



▼基本的な生活習慣や学習習慣については良好、教科への関心も高い傾向にあります。

質問紙の回答について、肯定的な回答が全国値を上回っている項目が全体の7割近くありましたが、将来の夢や目標、地域や社会への関心などに関する質問への肯定的な回答の割合が、全国値を大きく下回りました。

また、教科への関心や必要性、重要性については高

い意識があるものの、学習方法などに関する質問については若干低い傾向がありました。

中学校では

▼国語は全国平均以上、数学は同等、英語は知識を生かした書く力の育成が求められます。

国語は全国平均正答率を上回りました。半分以上の生徒が正答率8割以上で、学習指導要領の領域別平均正答率も、ほとんどの領域

で全国値を上回っています。国語については、昨年に引き続き全国値を上回る結果となり、学習や指導の成果がうかがえます。

数学は全国平均正答率とほぼ同等でした。全国値を上回っている生徒も5割近くいます。学習指導要領の領域別平均正答率も、ほぼ全国値と同等でしたが、数と計算領域が5ポイント近く下回る結果でした。

英語は全国平均正答率をやや下回りましたが、学習指導要領の領域別平均正答率は、「読むこと(読む能力



授業の工夫などにより、少しずつ成果が見られるように

また、小学生の質問紙結果同様、将来の夢や目標、地域や社会への関心などに関する質問への肯定的な回答の割合がやや低くなっています。

力)については全国値を上回りました。下回った領域の中では特に、「書くこと(書く能力)」に関する問題の正答率が低く、課題がうかがえました。また、問題形式別にみると、小学校調査でも課題としてあげた、記述式問題の正答率が低く、小中それぞれの取り組みが必要と考えます。

▼自己有用感等についての意義に課題が見られます。質問項目に対し、肯定的な回答が全国平均を上回る回答が6割以上でした。国語、数学、英語とも、学習

成果のみられる部分

□小学校では国語、算数、中学校では特に数学への関心などについて肯定的な回答が高く、児童生徒の学習に対する前向きな姿がうかがえます。

□中学校の国語では、全国平均正答率を上回り、基礎的な国語力が身に付いています。また、無答率も極めて低く、関心意欲にもつながっていると考えます。

□小学校、中学校とも、9割以上の児童生徒が、学習に対するICTの活用について肯定的な回答をしています。教師が積極的にICTを活用し、児童生徒自身も学習活動に対して意欲的に取り組むことができていると考えます。

□特に中学校において、話し合いや協力、規則順守など、学級集団づくりに対する肯定的な回答の割合が高くなっています。

課題となる部分

資料活用能力

グラフや表、そのほかの資料から情報を的確に読み取る力に課題があります。



▲児童に郷土の偉人やふるさとの魅力を伝える「ふるさと教室」の一コマ。地域人材や資源を生かした取り組みも積極的に行われている◀地域とともにある学校づくりを進めることで、児童生徒の関心や意識の向上につながっていく

児童・生徒の教科に対する興味や関心が、学習を好む意識や意欲、そ

小学校、中学校とも、多くの教科でその必要性や重要性など、教科に関する関心は高いものの、「好きかどうか」という質問項目への肯定的回答が低い傾向がありました。

■関心が生きる授業づくり

基礎基本の確実な定着にもつながります。

児童・生徒の教科に対する興味や関心が、学習を好む意識や意欲、そ

小学校、中学校とも、多くの教科でその必要性や重要性など、教科に関する関心は高いものの、「好きかどうか」という質問項目への肯定的回答が低い傾向がありました。

■関心が生きる授業づくり

基礎基本の確実な定着にもつながります。

児童・生徒の教科に対する興味や関心が、学習を好む意識や意欲、そ

小学校、中学校とも、多くの教科でその必要性や重要性など、教科に関する関心は高いものの、「好きかどうか」という質問項目への肯定的回答が低い傾向がありました。

■関心が生きる授業づくり

基礎基本の確実な定着にもつながります。

一つの資料から言えることだけでなく、複数の資料を統合的に見て読み取り、そこから分かることを説明したり、活用したりして力をつけていくことが必要です。この度調査した教科だけでなく、各教科、領域の中で指導者が意識し、授業を展開していくことも対策の一つと言えます。

■書くこと（書く能力）

小学校、中学校とも、各教科で「書くこと（書く能力）」

力）についての課題が共通してあげられました。条件にあった書き方、相手に意識した書き方、例にならった書き方など、目的に合わせて自分で考えて書くことへの課題があります。

また、教師が授業の振り返りなどの時間を有効かつ意図的に組み入れ、目的を持った振り返りの時間にするなど、日々の授業づくりにおける積み重ねも重要です。それらの中で、算数・数学用語の適切な使い方や、国語のつなぎ言葉、英語の語順など、教科ごとにきめ細かな言葉の指導なども意識すること、

基礎基本の確実な定着にもつながります。

■キャリア教育、社会への関心

自分の将来に対する夢や目標、地域や社会に対する関心については、ここ数年続けて課題としてあがっています。キャリア教育との関連は、この度の学習指導要領の改訂でも大きく取り上げられ、特別活動を中心に、各教科領域でもその重要性がうたわれています。

■今後の取り組み

■主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに継続して取り組みます。

■「めあて・まとめ・ふりかえり」を意識した授業改善を図ります。

■考える意欲を引き出す課題やめあての設定を意識した授業づくりを進めます。

■「わかる」「わからない」が言える授業づくりを進め、学習意欲の向上を図ります。

■各教科で、自分の思いや考えを的確に書くことのできる活動や時間の確保に努めます。

■必要な情報を読み取り、活用できるような授業を展開します。

■家庭と一緒に、家庭学習のより一層の充実に努めます。

■家庭学習の時間（量）の確保と質の向上、学習習慣の定着と向上を図ります。

■放課後等を有効に活用し、補充学習などを行います。

■地域素材の取り入れや、地域人材の積極的な活用に取り組み、地域とともにある学校づくりを進めます。